

平成27年度事業報告書

平成27年4月 1日から
平成28年3月31日まで

一般財団法人 日本モーターボート競走会

目 次

I. 概 況	・ ・ ・ ・ ・ 1
II. 実施した競走実施業務に関する事業	
1. 競技関係事務	
（1）選手、ボート及びモーターの検査に関する事務	・ ・ ・ ・ ・ 3
（2）競技の審判に関する事務	・ ・ ・ ・ ・ 3
（3）選手の管理に関する事務	・ ・ ・ ・ ・ 3
（4）その他競技運営事務	・ ・ ・ ・ ・ 3
2. 選手、競走に使用するボート及びモーター、審判員並びに検査員の登録	
（1）選手、審判員及び検査員の試験	・ ・ ・ ・ ・ 3
（2）選手、審判員及び検査員の登録	・ ・ ・ ・ ・ 3
（3）競走用ボート・モーターの検査及び登録	・ ・ ・ ・ ・ 4
（4）選手、審判員及び検査員登録資格審査会	・ ・ ・ ・ ・ 4
3. 選手の出場のあっせん	
（1）選手の出場のあっせん	・ ・ ・ ・ ・ 4
（2）選手出場あっせん委員会	・ ・ ・ ・ ・ 5
（3）ボートレースオールスター（笹川賞競走）出場選手選考委員	・ ・ ・ ・ ・ 6
（4）選手出場あっせんに関する会議等	・ ・ ・ ・ ・ 6
（5）あっせん及び番組編成支援システムの維持管理及び改善	・ ・ ・ ・ ・ 7
4. 選手、審判員及び検査員の養成及び訓練	
（1）選手、審判員及び検査員の養成	・ ・ ・ ・ ・ 7
（2）選手、審判員及び検査員の訓練	・ ・ ・ ・ ・ 8
（3）やまと学校の運営	・ ・ ・ ・ 10
5. 選手、審判員及び検査員の褒賞及び懲戒	
（1）選手、審判員及び検査員の褒賞懲戒審議会	・ ・ ・ ・ 10
（2）公正の確保	・ ・ ・ ・ 11
6. ボート及びモーターの改良、競技に必要な設備の改善並びに競技の実施方法に関する調査及び研究	
（1）競技運営の改善研究	・ ・ ・ ・ 12
（2）事故防止対策	・ ・ ・ ・ 15
（3）競走用ボート等の改善に関する調査研究	・ ・ ・ ・ 17

7. 競走の公正かつ円滑な実施を図るための企画・立案

- (1) 諸体制の強化 19
- (2) ボートレースの普及及びイメージアップを図るための広報 20
- (3) 集客のための広報 24
- (4) ボートレースの発展のための調査研究 25
- (5) 関係者の資質向上に関する事業 25
- (6) その他の事業 25

8. 海事知識の普及

- (1) アマチュアモーターボートレースの支援 26
- (2) ゴムボート大会等の実施 26
- (3) 各地海事広報協会との共同事業の実施 26

III. 実施した競走実施業務以外の業務

1. その他本会の目的を達成するために必要な事業

- (1) 広域発売の推進 28
- (2) その他の業務 28

IV. 理事会、評議員会等の開催及び認可事項

1. 理事会、評議員会等

- (1) 理事会 29
- (2) 評議員会 30
- (3) 理事連絡会 30

2. 認可事項

- (1) 競走実施業務規程（選手、審判員及び検査員資格検定試験実施規程並びにボート、モーター、選手、審判員及び検査員登録業務規程並びに選手、審判員及び検査員養成訓練規程）の一部改正について役員の選任について 31
- (2) 平成27年度収支予算変更について 31
- (3) 平成28年度事業計画及び収支予算について 31
- (4) 競走実施業務規程（選手出場あっせん規程）の一部改正について 31

3. 三規程委員会委員

- (1) 選手、審判員及び検査員登録資格審査会 31
- (2) 選手出場あっせん委員会 31
- (3) 選手、審判員及び検査員褒賞懲戒審議会 31

4. 役員、評議員及び職員

- (1) 役員 32
- (2) 評議員 32
- (3) 職員等 32

5. その他

- (1) 平成27年3月31日現在の株式保有の概要 33

I. 概 況

平成27年度は、ボートレースチケットショップの新設、電話投票会員向けサービスの充実、場間場外発売日数の拡大等のボートレース活性化策が実施されたことから、総売上は対前年比4.7%増の1兆423億円、一日平均売上は対前年比4.6%増の2億3,677万円となり、平成19年度以来となる1兆円回復となった。

このような中、国土交通大臣の競走実施機関の指定に基づく競走実施業務を適切かつ確実に実施することを最重点事業として位置付け、「審判、検査等の競技関係事務」、「選手、ボート・モーター、審判員及び検査員の登録」、「選手の出場のあっせん」、「選手、審判員及び検査員の養成及び訓練」、その他の業務を公正・円滑に実施した。

特に、競技運営においては、更なる売上向上を図るためレース場周辺半径30km圏内の新規顧客掘り起こしと既存ファンへの日頃の感謝を表すことを目的とした「ファン感謝3Days」を設定し、業界初の3日間のトーナメント戦として企画された「BOATRACEバトルトーナメント」を実施するとともに、シニア選手を対象としたGⅢマスターズリーグ戦競走を新設したほか、魅力あるレースのあり方について研究・検討を行った。

また、スタート事故防止モデル場や場別スタート事故防止目標の設定を行った結果、事故率は0.295となり、スタート事故防止目標の0.30以内を3年連続で達成した。

さらに、人身事故防止を目的に、前年度から出力を約1馬力低減した新型モーターを順次導入した。

その他、男子選手の最低体重を見直すとともに、出場選手へ快適な環境を提供するため、ボートレース徳山選手宿舎を新築し、ボートレース桐生選手宿舎の建築に着手した。

養成訓練においては、強い選手作りを目的としたボートレース場での現地訓練や選手・整備士を招聘した訓練等を取り入れ内容の充実化に努めるとともに、専門講師による科学的トレーニングの実施、武道・徳育等の躰教育により養成員の資質向上を図った。

また、有資質者を確保するため、全国各地で選手募集活動や募集説明会の実施に取り組み、選手入学試験を全国10か所において実施した。

スター選手の育成においては、全国スター及び地区スター候補等の対象選手を新たに選出し、地区内でのあっせん優遇措置、操縦・整備の実技訓練やプロ意識・メンタル等の向上を目的とした講習会を実施したほか、広報活動として、注目度の高い女子選手のプロモーション活動やマスメディアへの露出を積極的に展開した。

また、全国各地の海事広報協会との共同事業として、ボートレース場を中心に小中学生を対象とした海洋教室等を開催し、海事知識の普及に努めた。

Ⅱ. 実施した競走実施業務に関する事業

1. 競技関係事務

下表の競走実施に伴い、モーターボート競走法第33条第1号に基づき、以下の競技関係事務を実施した。

なお、開催日数は前年度より5日多い4,402日となった。

ボートレース場	開催日数
桐 生	194日 (全日程ナイター)
戸 田	186日
江戸川	180日
平和島	186日
多摩川	180日
浜名湖	203日
蒲 郡	198日 (全日程ナイター)
常 滑	204日
津	192日
三 国	188日
琵琶湖	180日
住之江	186日 (うちナイター120日)
尼 崎	186日
鳴 門	0日
丸 亀	204日 (全日程ナイター)
児 島	192日
宮 島	198日
徳 山	192日
下 関	179日
若 松	192日 (全日程ナイター)
芦 屋	200日
福 岡	186日
唐 津	192日
大 村	204日
合 計	4,402日 (うちナイター908日)

(1) 選手、ボート及びモーターの検査に関する事務

モーターボート競走法第33条第1号に基づき、選手、ボート及びモーターの検査を行った。選手に対する検査は、身体上の支障の有無、体重等の測定を行い、ボート及びモーターに対する検査は、「ボート及びモーター登録規格」に規定する要件、構造上の欠陥の有無等の確認を有資格者である検査員が行った。

また、競走参加選手の私物検査、プロペラ検査、出場ボート・モーターの中間検査等、競技部内における検査体制のより一層の充実を図った。

(2) 競技の審判に関する事務

モーターボート競走法第33条第1号に基づき、競走に出場したモーターボートの出走、失格及び着順を判定し、並びに勝舟の決定を有資格者である審判員が行った。

また、審判判定支援装置（センターカメラ及び各コーナーカメラ）の映像を活用した審判判定を行うとともに、出場選手に対しては、過去の事故映像を用いた指導や競走水面の特性等についての指導を行った。

(3) 選手の管理に関する事務

モーターボート競走法第33条第1号に基づき、前日検査から管理解除までの間、外部との遮断を行い、これにより競走の公正確保に努めた。

(4) その他競技運営事務

モーターボート競走法第33条第1号に基づき、モーターボートの確認、出場準備、紹介、救助、番組編成、燃料管理、選手宿舎の運営等に関する事務を行った。

2. 選手、競走に使用するボート及びモーター、審判員並びに検査員の登録

(1) 選手、審判員及び検査員の試験

選手資格検定試験を2回（第155回、第156回）、審判員資格検定試験を1回（第123回）、検査員資格検定試験を1回（第103回）実施し、選手54名、審判員6名、検査員6名が合格した。

(2) 選手、審判員及び検査員の登録

(ア) 登録更新検査及び再登録検査

登録更新検査（選手12回、審判員12回、検査員12回）及び再登録検査（選手2回、審判員2回、検査員2回）を実施した。

(イ) 登録及び登録消除

項目	選手	審判員	検査員
平成26年度末の登録者	1,604名(203)	433名(14)	430名(14)
登録者(再)	2名(0)	2名(0)	2名(0)
登録者(新)	54名(15)	6名(0)	6名(0)
消除者	55名(3)	6名(2)	4名(2)
平成27年度末の登録者	1,605名(215)	435名(12)	434名(12)

()内は女子の人数

(3) 競走用ボート・モーターの検査及び登録

(ア) 登録検査

ボート及びモーターの登録検査を各所有者の申請に基づき、ボートレース場(ボートについては、ヤマト発動機株式会社で実施)において、ボート23回、モーター23回実施した。

(イ) 登録及び登録消除

項目	ボート	モーター
平成26年度末の登録数	1,488隻	1,426基
登録数(再)	0隻	0基
登録数(新)	1,474隻	1,318基
消除数	1,548隻	1,426基
平成27年度末の登録数	1,414隻	1,318基

(4) 選手、審判員及び検査員登録資格審査会

第55回選手、審判員及び検査員登録資格審査会を開催し、登録資格審査会運営の基本方針について審議検討を行った。

3. 選手の出場のあっせん

(1) 選手の出場のあっせん

モーターボート競走法第33条第3号に基づき、競走の公正かつ円滑な実施を図るため、選手の出場あっせんを行った。

月	項目	選手 総数	あっせん日数				開催 日数
			A 1	A 2	B 1	B 2	
4 月		1,586	13.8	13.8	10.6	7.0	373
5 月		1,580	14.1	14.2	11.6	7.4	392
6 月		1,603	13.4	13.6	11.2	6.0	367
7 月		1,596	13.6	13.3	11.5	7.1	371
8 月		1,593	14.9	14.9	11.3	8.5	396
9 月		1,591	12.2	12.0	9.8	6.9	340
10 月		1,586	13.3	13.1	9.7	7.1	349
11 月		1,586	12.2	12.1	9.6	6.2	331
12 月		1,614	14.9	14.8	11.0	6.9	372
1 月		1,607	14.1	14.3	11.2	7.7	346
2 月		1,604	12.7	12.3	8.9	6.4	328
3 月		1,593	13.1	13.0	10.5	6.5	372
27年度平均		1,595	13.5	13.5	10.6	7.0	361

(2) 選手出場あっせん委員会

「選手出場あっせん規程」に基づき、選手級別の決定、選手出場あっせん保留等、選手の出場のあっせんに関する重要事項を審議するため、2回開催した。

回	実施年月日	実施場所	出席者数	内 容
194	平成27年 5月15日	笹川記念 会 館	委員5名	(審議事項) 1. 選手級別の決定について (報告事項) 1. 選手出場あっせん規程実施細 則第7条第1項第8号該当選 手について 2. 選手出場あっせん規程実施細 則第12条第1項第2号適用 選手について 3. 平成26年度選手出場あっせ んの状況について 4. 平成27年のあっせん拒否状 況について
195	11月9日	笹川記念 会 館	委員5名	(審議事項) 1. 選手級別の決定について (報告事項) 1. 選手出場あっせん規程実施細 則第7条第1項第8号該当選 手について

				2. 選手出場あっせん規程実施細則第12条第1項第2号適用選手について 3. 平成28年のあっせん拒否状況について
--	--	--	--	--

(3) ボートレースオールスター（笹川賞競走）出場選手選考委員会
 全国ファン投票による出場選手の選考を行った。

回	実施年月日	実施場所	出席者数	内 容
1	平成27年 12月4日	笹川記念 会 館	委員6名	1. 第43回ボートレースオールスターファン投票の実施方法について
2	平成28年 3月2日	笹川記念 会 館	委員6名	1. 第43回ボートレースオールスターファン投票の実施結果について 2. 第43回ボートレースオールスター出場選手の選考について

(4) 選手出場あっせんに関する会議等

(ア) あっせん事務連絡会議

あっせん業務の円滑な実施を図るため、次年度のあっせんに関する方針、規則改正等を関係者に周知するため開催した。

実施年月日	実施場所	参加者数	内 容
平成27年 12月11日	笹川記念 会 館	78名	(検討事項) 1. 平成28年度グレード別競走開催予定表について 2. 平成28年度GⅠ・GⅡ競走の選出方法について 3. 平成28年度女子選手あっせんについて 4. 平成28年度企画レースの申請について 5. 2016スター候補選手について 6. ルーキーシリーズ及びヴィーナシリーズ出場対象選手について (報告事項) 1. 平成27年度不参加・出場取消状況等について

(イ) 地区別あっせん研究会

あっせん業務の円滑な実施を図るとともに、現行制度、規則等の改善点を研究、協議するため開催した。

会場	実施年月日	実施場所	参加者数	内 容
東京	平成27年 8月28日	笹川記念 会 館	22名	1. あっせんに関する諸問題について
大阪	9月 4日	新大阪 丸ビル	25名	
福岡	9月14日	博多ウー ブビル	24名	

(5) あっせん及び番組編成支援システムの維持管理及び改善

あっせん及び番組編成支援システムの効率化を図るため、BOATRACE振興会と協力して、作業上の各種改善を図るとともに、同システムの維持管理に努めた。

4. 選手、審判員及び検査員の養成及び訓練

(1) 選手、審判員及び検査員の養成

選手、審判員及び検査員養成訓練規程に基づき、養成訓練を実施した。

(ア) 選手の養成

期 別 区 分	第117期 選 手				第118期 選 手				第119期 選 手			
	一般		特別		一般		特別		一般		特別	
応募者数	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女
	1,183	180	4	0	1,360	235	1	0	1,087	195	0	1
第1次 合格者数	156	36	—	—	147	30	—	—	160	35	—	—
第2次 合格者数	55	17	—	—	45	16	—	—	56	18	—	—
第3次 合格者数	29	10	1	0	27	8	1	0	28	8	0	0
入学者数	29	10	1	0	27	8	1	0	28	8	0	0
養成期間	H26.10.1 ～ H27.9.18				H27.4.1 ～ H28.3.18				H27.10.1 ～ H28.9.16 (予定)			
卒業者数 又は 現在員数	男		女		男		女		男		女	
	22		7		17		8		22		7	

(イ) 審判員及び検査員の養成

区 分	期 別	
	第 79 審判員	第 80 期検査員
応 募 者 数	(男) 8	(女) 0
合 格 者 数	8	0
入 学 者 数	7	0
養 成 期 間	H27. 4. 1 ～H28. 3. 18	
卒 業 者 数	6	0

(2) 選手、審判員及び検査員の訓練

(ア) 選手定期訓練

1, 4 5 8名の選手（登録2年以上）を対象に16回にわたり競走の健全化及び競走の技術の向上を図るため業務指導を行うとともに、併せて選手の資質向上を図るため講話等を実施した。

回	実施年月日	実施場所	参加者数	内 容
1	平成27年 5月11日～13日	やまと 学 校	91名	1. 業務指導 (1) 業務部 (2) 技術課 2. 講話 (1) “孫子の兵法”～現代を勝ち残る！勝利の方程式～ (2) プロ選手としての人生設計セミナー (3) こうして僕は世界を変えるために一步を踏みだした 3. 体育 (1) 競技能力を最大限に発揮するための筋力強化(アウター編) (男子のみ)
2	5月18日～20日		98名	
3	5月25日～27日		99名	
4	6月 1日～ 3日		98名	
5	6月15日～17日		99名	
6	6月22日～24日		100名	
7	6月29日～7月1日		93名	
8	7月 6日～ 8日		97名	
9	7月13日～15日		98名	
10	7月21日～23日		98名	
11	8月24日～26日		90名	
12	8月31日～9月2日		86名	
13	9月 9日～11日		95名	

14	10月26日～28日		79名	(2) 女性特有の体のゆがみを調整するためのヨガ (女子のみ)
15	11月4日～6日		66名	
16	11月10日～12日		71名	

(イ) 新人選手定期・臨時訓練

109名の選手（登録2年未満）を対象に5回にわたり競走の健全化及び競走の技術の向上を図るため、操縦や整備を主体とした実技訓練及び業務指導等を実施した。

回	実施年月日	実施場所	参加者数	内容
1	平成27年 4月20日～23日	やまと 学 校	20名	1. 操縦 2. 性能向上整備 3. 業務指導
2	4月27日～30日		22名	(1) 公正課 4. 講話
3	10月5日～8日		23名	(2) 愛されるコミュニケーション (3) 体幹トレーニングと整体ストレッチ (男子のみ)
4	10月13日～16日		23名	(4) 女性のためのヨガ (女子のみ)
5	10月19日～22日		21名	

(ウ) 選手会支部別自主訓練

選手の資質向上並びにスター選手育成を目的として、ボートレース場等において模擬レース等の実技訓練を行い、新人選手を中心とした業務指導を行った。

(エ) 審判員及び検査員定期訓練

427名の審判員及び検査員を対象に12回にわたり競走の健全化及び競技運営の技術の向上を図るため業務報告を行うとともに、併せて審判員及び検査員の資質向上を図るため講話等を実施した。

回	実施年月日	実施場所	参加者数	内容
1	平成27年 11月17日～18日	蒲郡	21名	1. 業務報告 (1) 業務部
2	11月21日～22日	児島	40名	(2) 技術課

3	11月27日～28日	やまと学校	41名	(3) 企画部 2. 講話 (1) 日本財団の活動内容について (2) アサーティブコミュニケーションによるモチベーションアップ (3) 救急救命法(やまと学校のみ) 3. 施設見学(レース場のみ)
4	12月3日～4日	住之江	35名	
5	12月15日～16日	児島	34名	
6	12月21日～22日	桐生	36名	
7	平成28年 1月18日～19日	やまと学校	35名	
8	1月22日～23日	蒲郡	51名	
9	2月5日～6日	桐生	37名	
10	2月8日～9日	住之江	43名	
11	2月15日～16日	桐生	23名	
12	3月2日～3日	やまと学校	31名	

(3) やまと学校の運営

(ア) 施設の維持管理

各種設備、機材及び機器類の点検管理に万全を期し、選手、審判員及び検査員の養成訓練並びに定期訓練の施設としての機能維持に努めるとともに、建物調査結果に基づく施設改修計画により補修工事等を行った。

(イ) 施設の利用

選手、審判員及び検査員の養成訓練並びに定期訓練ほか、ボートレース関係者の研修等の施設として利用するとともに、九州管区警察学校、柳川市主催の水郷柳川ゆるり旅、柳川高等学校生徒会など各団体（33団体）、そして一般の見学希望者等合わせて約1,250名を受け入れた。

5. 選手、審判員及び検査員の褒賞及び懲戒

(1) 選手、審判員及び検査員の褒賞懲戒審議会

選手、審判員及び検査員褒賞懲戒規程に基づき、褒賞及び懲戒に関する事項を審議するため、選手、審判員及び検査員褒賞懲戒審議会を5回開催した。

回	実施年月日	実施場所	出席者数	内容
310	平成27年 5月18日	笹川記念 会館	委員10名	選手の褒賞 13名 実務者の褒賞 11名 選手の懲戒 7名 検査員の懲戒 1名

311	7月22日	笹川記念 会館	委員 9名	選手の褒賞 7名 実務者の褒賞 9名 選手の懲戒 2名
312	9月30日	笹川記念 会館	委員 9名	選手の褒賞 17名 実務者の褒賞 2名 選手の懲戒 3名
313	12月 8日	笹川記念 会館	委員 10名	選手の褒賞 7名 実務者の褒賞 6名 選手の懲戒 3名
314	平成28年 2月17日	笹川記念 会館	委員 10名	選手の褒賞 13名 実務者の褒賞 4名 選手の懲戒 4名

(2) 公正の確保

(ア) 競走の不正防止対策の調査研究

(a) 全国公正指導委員会議

競走運営の健全化に資するため、競走の不正防止に関する調査研究及び選手の動向調査並びに指導事項の検討を行った。

実施年月日	実施場所	参加者数	内 容
平成28年 3月23日	笹川記念 会館	34名	1. 選手関係諸問題 2. 選手動向調査の集計結果 3. 選手指導について 4. 諸情報の交換

(b) 公正業務の現地調査

担当者が現地に赴き諸情報を収集し、競走の不正防止を図った。

実施年月日	実施場所	回 数	内 容
平成27年4月～ 平成28年3月	各 地 ボートレース場等	30回	1. 諸情報の収集

(c) 公正指導員会議

円滑かつ効果的な調査活動を促進するため、各地区の公正指導員に対し調査活動に必要な知識を付与し、あわせて、情報の交換を行った。

実施年月日	実施場所	参加者数	内 容
平成27年 9月2日～3日	ボートレース大村	10名	1. 諸情報の交換
平成28年 3月22日～23日	笹川記念 会館	10名	1. 諸情報の交換

(d) 公営競技公正連絡会議

公営競技5団体相互の緊密な連携を図るとともに、公営競技の健全な発展を期すため情報の交換を行った。

実施年月日	実施場所	参加者数	内 容
平成27年 6月25日	大井競馬場	17名	1. 諸情報の交換
10月29日	ホートレス平和島	16名	1. 諸情報の交換

(イ) ふれあい研修会

本会支部が主催するふれあい研修会において、選手及び家族の指導を行った。

実施年月日	実施回数	参加者数
平成27年6月～ 平成28年3月	18回	総 数 780名 選 手 347名 家 族 294名 関係者 139名

(ウ) 新人選手の指導強化

新人選手に対する指導要領に基づき選手会及び公正指導委員と協力し、個人面談等による指導、選手会主催の再訓練における業務指導を行った。

6. ボート及びモーターの改良、競技に必要な設備の改善並びに競技の実施方法に関する調査及び研究

(1) 競技運営の改善研究

(ア) 競技運営の改善、合理化

(a) 競技運営研究委員会

競走運営の円滑な実施を図るため、競技運営及び選手関係諸問題等、現行諸制度について検討した。

回	実施年月日	実施場所	出席者数	内 容
101	平成27年 11月19日	笹川記念 会 館	9名	1. 「女子選手の妊娠特例」の制定について 2. 選手級別決定基準の見直しについて 3. 仮称「GⅢマスターズリーグ」の新設について 4. 悪天候等によるレース中断に対する措置について

102	12月10日	笹川記念 会館	9名	<ol style="list-style-type: none"> 1. 女子選手の妊娠特例の制定に関する答申書（案）について 2. 選手級別決定基準の見直しに関する答申書（案）について 3. GⅢ競走の新設に関する答申書（案）について 4. 悪天候等によるレース中断に対する措置について 5. 途中帰郷の防止策について
103	平成28年 2月3日	笹川記念 会館	9名	<ol style="list-style-type: none"> 1. 悪天候等によるレース中断に対する措置について 2. 非常識なフライングの処置について 3. 途中帰郷の防止策について

(b) 各種実務担当者会議

①審判委員長・競技委員長会議

競技運営の円滑な実施を図るため、各地の審判委員長及び競技委員長を招致し、競技運営上の諸問題について検討した。

回	実施年月日	実施場所	参加者数	内容
1	平成27年 10月7日	笹川記念 会館	53名	<ol style="list-style-type: none"> 1. 競技運営関係諸問題について 2. 審判関係諸問題について
2	平成28年 3月1日	笹川記念 会館	50名	<ol style="list-style-type: none"> 1. 競技運営関係諸問題について 2. 審判関係諸問題について

②地区代表実務検討会

地区別実務検討会においてまとめられた結果を代表支部が持ち寄り、検討を行った。

実施年月日	実施場所	参加者数	内容
平成27年 7月27日	笹川記念 会館	18名	<ol style="list-style-type: none"> 1. 競技運営関係について

③審判判定研究部会

競技運営の円滑な実施を図るため、各地の審判委員長を招致し、競技運営上の諸問題について検討した。

実施年月日	実施場所	参加者数	内容
平成27年 6月30日	笹川記念 会館	15名	<ol style="list-style-type: none"> 1. 審判機器の統一に向けた検討について 2. 審判判定の統一に向けた検討について

2	平成28年 2月10日	笹川記念 会館	15名	1. 審判機器の統一に向けた検討について 2. 審判判定の統一に向けた検討について
---	----------------	------------	-----	--

④ S G 競走等実施要綱打合せ会議

全国発売対応として、競走運営の統一を図るため開催した。

実施年月日	実施場所	参加者数	内 容
平成28年 2月2日	笹川記念 会館	85名	1. 平成28年度S G 競走等実施要綱(案)について

⑤ レスキュー講習会

レスキュー艇要員の更なる救助体制の充実と技量向上を目的として、5地区、5ボートレース場において実施した。

実施年月日	実施場所	参加支部	内 容
平成27年 9月11日	ボートレース 若松	若松、唐津、大村	1. 業界の一般情勢・人身事故の傾向について 2. レスキュー艇操船時の各種確認事項について 3. 救助時の注意事項について 4. レスキュー艇操船時の映像検証・指導について 5. 救助実技
9月16日	ボートレース 浜名湖	戸田、平和島、浜名湖蒲郡、常滑、津	
9月29日	ボートレース 尼崎	三国、琵琶湖、住之江尼崎、丸亀、児島	
10月6日	ボートレース 宮島	鳴門、宮島、徳山下関、芦屋、福岡	
10月21日	ボートレース 桐生	桐生、江戸川、多摩川	

(c) 競技運営に関する調査研究

競技運営上の諸問題に関する各種調査研究を行うとともに、審判判定用器材の充実として、ボートレース蒲郡における審判判定用カメラを更新した。

また、お客さまの注目度の最も高いS G 競走及びプレミアムG I 競走において、よりの確な判定を行うため、S G 審判員が審判業務に関する調査研究を行った。

(イ) 水上施設の改善研究

各種スタート標識等の改善に関しての調査を行い、水上施設の改善を行った。

(ウ) 選手宿舍施設の新築・改修

出場する選手に快適な環境を提供し、より一層の公正・安全な競技運営を実施するため、ボートレース徳山選手宿舍を新築し、ボートレース桐生選手宿舍の建築に着手した。

(2) 事故防止対策

(ア) 各種事故の調査研究

(a) スタート事故

年間スタート事故防止目標を設定し、注意を喚起するとともに、事故防止目標、連続無事故（20日以上）を達成した支部に対し表彰を行った。

また、スタート事故防止モデル場においてスタート事故防止に効果的な水上施設等の見直しについて検討した。

さらに、+0.05以上のフライングを「非常識なフライング」と定義し、ペナルティを科すことにより、集団フライングの防止を図った。

(b) 人身事故

各地で発生した人身事故レース映像をもとに、選手定期訓練において映像を用いた指導を行った。

(イ) スタート事故防止に関する選手指導

スタート事故防止に関し、具体的な目標数値や事故状況等のデータ提供により選手指導を行った。

なお、各種スタート事故防止目標の達成については次のとおりであった。

(a) 事故率0.30以内かつ返還率1.000%以内

ボートレース場	事故率	返還率
多摩川	0.172	0.768
住之江	0.183	0.395
蒲郡	0.263	0.982

(b) 連続スタート無事故

スタート無事故連続20日以上を達成したレース場は戸田（1年間で2度達成）、平和島、多摩川、蒲郡、津、琵琶湖、徳山、若松、芦屋、福岡、大村の11場であった。

(c) 事故率0.30以内かつ地元ボートレース場事故率0.30以内（選手会支部）

平成26年11月～平成27年4月

選手会支部	事故率
山口	0.205
静岡	0.211
広島	0.226
群馬	0.236

東京	0.243
大阪	0.275
滋賀	0.294
愛知	0.294

平成27年5月～10月

選手会支部	事故率
長崎	0.136
山口	0.211
福井	0.241
岡山	0.260
群馬	0.266
徳島	0.272

(ウ) 人身事故等の防止に関する選手指導

選手の人身事故防止に対する意識の高揚を図るとともに、人身事故の未然防止を促進するため、未然防止に貢献のあった選手を表彰した。

登録番号	被表彰選手	登録番号	被表彰選手
2887	大井崇夫	4167	片岡秀樹
3607	原田智和	4184	渡邊雄一郎
3684	清水攻二	4256	渡辺浩司
3742	宮地秀祈	4262	馬場貴也
3839	川合理司	4329	小松卓司
3961	谷村一哉	4498	宮本夏樹
3989	熊本英一	4578	藤山雅弘
4007	柴田将彦	4618	乃村康友
4086	寺本重宣	4679	植田太一
4101	三井所尊春	4723	寺島吉彦

(エ) 技術連絡会議

競走用ボート・モーター等に関する性能向上及び事故防止対策等について協議を行った。

回	実施年月日	実施場所	参加者数	内 容
1	平成27年 9月25日	笹川記念 会 館	92名	(報告事項) 1. 各種事故概要 2. 当面の事故防止対策 (1) 防護具の開発・改良 (2) ボート・モーターの改良 (審議事項) 1. ヘルメット関連の各種申し合 せ事項等の一部改正
2	平成28年 3月11日	笹川記念 会 館	87名	(報告事項) 1. 各種事故概要 2. 当面の事故防止対策 (1) 防護具の開発・改良 (2) ボート・モーターの改良

(オ) レスキュー訓練

航走事故が発生した際、負傷選手を迅速に救助するとともに安全円滑な競技を
続行するため、各支部におけるレスキュー訓練を定期的実施した。

(3) 競走用ボート等の改善に関する調査研究

(ア) 競走用ボート・モーターの性能改善研究

競走の魅力向上を図り、公正かつ安全なレースを実施するため、ボート・
モーター等改善研究委員会を3回開催し、現用ボート・モーターの性能改善等
に関する調査研究を行った。

- (a) ボートの安定性向上に関する調査
- (b) ヤマト331型モーターの使用状況に関する調査
- (c) 試作シャープピンの強度に関する調査
- (d) 試作重量調整用敷きゴムの耐久性に関する調査

(イ) 防護具等の改善研究

人身事故の未然防止を図るため、ヘルメットや救命胴衣等の安全性向上に関す
る調査研究を行った。

- (a) 新型救命胴衣の先行導入の使用状況に関する調査
- (b) ヘルメットの安全性向上に関する調査
- (c) ヘルメット用試作シールドの性能に関する調査 (曇り止め、西日対策)
- (d) ネックガードの着用性に関する調査

(ウ) 整備士制度の運営

「モーターボート整備士規程」に基づき、モーターボート整備士資格制度運営
委員会を開催し、モーターボート整備士資格試験を実施して資格の付与を行った。

また、整備士の資質向上を目的として、整備士講習会を開催するなど整備士制度の運営を行った。

(a) モーターボート整備士資格制度運営委員会

モーターボート整備士規程に基づき、整備士の資格試験及び講習会等に関する事項を審議するため、笹川記念会館において1回開催した。

(b) モーターボート整備士資格試験の実施及び資格の付与

①モーターボート整備士資格試験

モーターボート整備士規程に基づき、1級・2級モーターボート整備士資格試験を聖マリア病院及びやまと学校において実施した。

回	級	日 程	受験者数	合格者数
第49回	1級	平成27年7月2日～3日	2名	1名
第95回	2級		3名	3名
第96回	2級	12月15日	8名	8名

②資格の付与

項 目	1級整備士	2級整備士	合 計
平成26年度末の有資格者	62名	137名	199名
新資格者	1名	11名	12名
資格再付与者	0名	0名	0名
消除者	2名	14名	16名
平成27年度末の有資格者	61名	134名	195名

(c) 整備士講習会

整備士の資質の向上を目的として、整備に関する知識及び技量の向上を図った。

①モーターボート整備士講習会

回	実施年月日	実施場所	参加者数	内 容
1	平成27年 10月7日～8日	ボートレース 蒲郡	24名	1. 業界の一般情勢 2. 技術講話・技術実習 3. ビデオレポート 4. 技術課業務説明 5. 業務検討会 6. 施設見学
2	10月20日～21日	ボートレース 児島	45名	
3	11月10日～11日	ボートレース 芦屋	41名	
4	12月21日～22日	ボートレース 平和島	33名	
5	平成28年 1月20日～21日	ボートレース 尼崎	41名	

② 2級モーターボート整備士試験講習会

モーターボート整備士として必要な知識と技術を習得させるとともに、競走の公正と安全を確保するうえで必要な業界の一員としての自覚や整備士心得等についても会得させ、2級整備士資格取得の一助となるための講習会を行った。

実施年月日	実施場所	参加者数	内 容
平成27年 11月5日～12月14日	やまと 学 校	8名	1. 整備 2. 計測 3. 操縦 4. 故障探究 5. 学科 6. 修了試験

7. 競走の公正かつ円滑な実施を図るための企画・立案

(1) 諸体制の強化

(ア) モーターボート競走連絡協議会

ボートレースの運営に関し、関係者間の連絡調整を図るとともに、ボートレースの公正かつ円滑な実施を目的にボートレース場等のヒアリング調査を行った。

さらに、ボートレース場毎の年間開催回数及び年間開催日数について、ボートレース場の運営体制等を勘案し、ボートレース場間の調整を図った。

会議名・実施年月日	内 容
モーターボート競走連絡協議会 第1回幹事会 平成27年10月22日	1. 平成28年度業界努力目標（案）について 2. 第42回モーターボート競走関係全国責任者会議（案）について
モーターボート競走連絡協議会 開催日数等調整会議 平成27年10月22日	1. 平成28年度モーターボート競走の開催回数及び開催日数について
第42回モーターボート競走 関係全国責任者会議 平成27年11月13日	1. ボートレース及び他公営競技の現況について 2. 競走場及びボートピアにおける施策の推進状況について 3. ボートレース活性化策について 4. 平成28年度業界努力目標（案）について

回	ボートレース場 ボートピア	ヒアリング調査日程
1	下関	6月25日～26日
2	宮島	7月 9日～10日
3	ボートピアなんぶ ミニボートピア黒石	7月30日～31日
4	三国	8月 6日～ 7日
5	ミニボートピア双葉	8月31日

(イ) ボートレース活性化委員会

ボートレース業界全体で推進する施策について、中央団体の代表者を招集し、活性化策の意思決定を行った。

回	実施年月日	実施場所	出席者数	内 容
29	平成27年 4月 6日	笹川記念 会 館	14名	1. ファン感謝3Daysの開催場について
30	9月15日		13名	1. 2分前締切時間の短縮について 2. ファン感謝3Daysの進捗状況について
31	12月 9日		13名	1. ファン感謝3Days次年度開催場について 2. レース数を拡大した進入固定レースの試行実施について

(ウ) 公営競技各団体との連絡会議等

(a) 公営競技企画連絡会議

他公営競技と各種情報の交換を図るため、各公営競技団体の事務所において開催した。

	実施年月日	実施場所	参加者数	内 容
228	平成27年 7月 9日	中央競馬 事務所	20名	各公営競技の現状について
229	10月29日	JKA (オート) 事務所	21名	
230	平成28年 1月21日	笹川記念 会 館	16名	

(b) 公営競技会長・理事長懇談会

他公営競技と各種情報の交換を行った。

回	実施年月日	実施場所	出席者数	内 容
130	平成27年 6月15日	中央競馬 事務所	9名	当面の諸問題について
131	11月 5日	JKA (競輪) 事務所	9名	

(2) ボートレースの普及及びイメージアップを図るための広報

(ア) スター選手育成に関する事業

スター選手育成実行部会を開催し、スター候補選手の選考を行い、操縦整備等の実技訓練及びスター選手としての心構えやスポーツ選手の講話、メディア体験

研修等の講習会を実施しスキルアップを図った。

また、電話投票会員及びボートレース場ファンクラブ会員向けイベントとの連携による地区別合同自主訓練を実施し、参加した若手選手の技量向上とPRに努めた。

(a) スター選手育成実行部会

回	実施年月日	実施場所	出席者数	内 容
15	平成27年 11月20日	笹川記念 会 館	13名	1. 2016 スター候補選手 の選出について 2. 2016 スター候補選手 のPR展開について 3. 2016 全国・地区スタ ー候補選手講習会につい て 4. 地元・準地元スター候補 選手実技訓練について 5. 平成28年度地区別合同 自主訓練について

(b) 全国・地区スター候補選手講習会

実施年月日	実施場所	参加者数	内 容
平成28年 2月1日～2日	四国放送	全国スター 候補選手 2名 地区スター 候補選手 10名	1. テレビ局キャスターによ るメディア対応研修 2. オリンピック金メダリス トによる講話 3. 他公営競技選手による講 話 4. 宣材写真撮影

(c) 地元・準地元スター候補選手実技訓練

回	実施年月日	実施場所	参加者数	内 容
1	平成27年 4月 7日 ～ 9日	やまと 学 校	地元 7名 準地元14名 計21名	1. 操縦 2. 性能向上整備 3. 校長講話 4. 体幹トレーニング
2	4月14日 ～16日		地元 13名 準地元 8名 計21名	

(d) パブリシティ

スター候補選手を積極的に活用することにより、各地のマスコミ（地方紙、全国紙支局、ラジオ等）にて、スター候補選手自身のPRを通じて、ポートレースの啓蒙、主要レースの話題化を図るとともに、選手募集活動のPRを行った。

(イ) 広報の充実

(a) 広報活動

①SG競走等

SG競走（8SG競走及び4プレミアムGI競走）、選手養成訓練卒業記念競走・卒業式、入学式、優秀選手表彰式典等の話題性のある内容について、お客さまをはじめ社会全般に対しポートレースの広報を行った。

②一般パブリシティ

新聞、雑誌、テレビ、ラジオ等、全国のマスコミ機関に対してポートレース事業のパブリシティ活動を積極的に行い、業界のイメージアップを図った。

③ペイドパブリシティ

新聞、雑誌等のマスコミ媒体にペイドパブリシティ活動を行い、業界のイメージアップを図った。

④公式フェイスブック

次世代のお客さまの取り込みを図るため、SNSを利用した公式フェイスブックを運営し、SG競走等における密着レポートの他、継続的な情報発信を行うなど、累計で7,000名を超えるフェイスブック会員を確保した。

(b) 資料作成

業界関係者、マスコミ関係者に対する広報、宣伝活動に活用するための資料を作成した。

①各種写真資料（SG競走時等での主力選手のレース写真）

②競走成績に関する資料

(c) 優秀選手の表彰

選手の競走意欲の助長とPR効果を高め、かつポートレースのイメージアップを図るため、優秀選手表彰規程に基づき選考委員会並びに表彰式典を行った。

実施年月日	実施場所	出席者数	内容
平成28年 1月7日	笹川記念 会館	9名	(選考委員会) 優秀選手表彰規程に基づく選考 委員会を開催した。

2月18日	品川プリンスホテル	700名	(表彰式典) 1. 選考委員会で選出された優秀選手4名の表彰式を全国のスポーツ新聞社の後援により開催した。 2. 各ボートレース場並びにボートピアのお客さまや報道関係者及び来賓関係者等の出席を得た。
-------	-----------	------	---

(ウ) 選手の募集

(a) 募集担当者会議

選手募集活動のあり方を検討し、円滑な募集活動の実施を図るため開催した。

回	実施年月日	実施場所	参加者数	内 容
1	平成27年 4月10日	TKP新大阪ビジネスセンター	49名	1. 入学試験結果、養成訓練状況等について 2. 第117期・第118期選手及び第79期審判員・第80期検査員養成訓練の現況について 3. 第120期・第121期選手養成員及び第80期審判員・第81期検査員養成員の募集について (1)第118期・第119期選手募集の広報活動状況 (2)広報計画、製作物等 4. スカウト活動状況について 5. その他

(b) 選手募集活動促進のための広報

①スカウト活動

世間的にも注目度の高いスポーツ競技者を募集するため、各スポーツ競技団体及びセカンドキャリア事務局へ独自にアプローチした他、体育大学等においてボートレースセミナーを実施するなど有資質者の確保に努めた。

②ポスター、パンフレット等の配布

第120期、第121期選手の募集活動として、BOATRACE振興会のCMビジュアルを活用した募集用ポスター、パンフレット及び募集DVDを全ボートレース場に配布した。

③Web等を活用した資料請求方法

ボートレースオフィシャルWebや各ボートレース場のホームページ、携帯電話のサイトを活用した資料請求を実施した。

④媒体訪問

支局・支部と連携し、新聞社の媒体訪問を実施した。

⑤募集説明会の実施

ボートレースアンテナショップ（札幌・仙台・沖縄）、応募人数（選手の出身地等）の少ない福島、新潟地区において、募集説明会及び周辺の学校訪問を実施した。

(エ) 資料の収集、諸統計の作成及び刊行物の発行

ボートレース事業の現況をお客さま及び関係者等に周知・徹底するため、各種資料を配布した。

- ①ニュースリリース (随 時)
- ②会 報 (毎月1回)
- ③フェイスブック (年間約500回 記事配信)

(3) 集客のための広報

(ア) SG競走等の広報支援

(a) SG競走の広報

来場促進と売上向上を図るため、各種リリース発信、スポーツ紙への媒体訪問及び競走開催中の記者席対応等、幅広くマスコミへの情報提供を行った。

(b) プレミアムGI競走等の広報

ヤングダービー（ヤングダービー競走）をはじめ、クイーンズクライマックス（賞金女王決定戦競走）、レディースチャンピオン（女子王座決定戦競走）、マスターズチャンピオン（名人戦競走）及びBOATRACEバトルトーナメントの注目度を高め来場の促進を図るため、各種リリース発信、スポーツ紙への媒体訪問及び競走開催中の記者席対応等、幅広くマスコミへの情報提供を行った。

(c) ボートレースオールスター（笹川賞競走）出場選手のファン投票の実施

ファン投票の日に限定したマークシートによる投票に加え、ボートレースオフィシャルWeb、携帯電話及びスマートフォンを活用した投票を実施した。

(イ) 全国広報・宣伝担当責任者会議

BOATRACE振興会との共催で全国広報・宣伝担当責任者会議を実施し、平成28年のボートレースCMなどボートレースに係る広報全般について連絡・周知を図った。

実施年月日	実施場所	参加者数	内 容
平成27年 11月17日	笹川記念 会 館	138名	1. BOATRACE振興会広報部の事業概要について 2. その他

(ウ) 広報研修会議

ボートレースにおける広報活動の重要性を確認し、具体的な広報活動の進め方についての研修を行い、今後の本部広報課、BOATRACE振興会、支局の広報活動の対応方法と強化を図った。

実施年月日	実施場所	参加者数	内 容
平成27年 10月14日	中國新聞 社ほか	19名	1. ボートレース広報の基本方針 2. 広報レクチャー及びワークショップ 3. その他

(4) ボートレースの発展のための調査研究

民間企業の業務協力等により、BOATRACE振興会が推進するボートレースを題材としたゲーム機等の開発、製作等について、協力を行った。

(5) 関係者の資質向上に関する事業

(ア) 執行役員研修会

執行役員を対象にマネジメント力の強化を図るため、執行役員研修会を実施した。

(イ) 若手職員研修会

養成訓練を終えた若手職員を対象に基本的なビジネスマナーの習得を図るため、若手職員研修会を実施した。

(ウ) 労務研修会

執行役員及び幹部職員を対象にハラスメントに係る知識習得等を図るため、労務研修会を実施した。

(6) その他の事業

(ア) 永年功労者の表彰

永年功労者表彰規程に基づき、永年にわたり本会関係者または選手としてボートレースの発展に寄与した功労者に対し、各ボートレース場等にて表彰を実施した。

勤続年数	競走会	選 手	合 計
30年	15名	22名	37名
20年	42名	47名	89名
合 計	57名	69名	126名

モーターボート整備士規程に基づき、永年にわたり整備士としてボートレースの発展に寄与した功労者に対し、各ボートレース場にて表彰した。

勤続年数	整備士
30年	0名
20年	7名
合計	7名

(イ) 売上新記録達成ボートレース場の表彰

売上新記録を達成したボートレース場の該当はなかった。

8. 海事知識の普及

(1) アマチュアモーターボートレースの支援

各種アマチュアモーターボートレース等への協賛を行い、競走会会長賞を交付し、海事知識の普及を図った。

(2) ゴムボート大会等の実施

ボートレース事業への理解と海事知識の普及を図るため、ボートレース場等において、近隣地域の住民を対象としたゴムボート大会及びペアボート試乗会等を実施した。

(3) 各地海事広報協会との共同事業の実施

ボートレース場が存在する各地海事広報協会との共同により、主に小中学生を対象にボートレース場等を活用した海洋教室等を実施し、海事知識の普及を図った。

実施場所	日程	内容
桐生	平成27年 9月19日	周年記念競走開催時に普及活動
戸田	平成27年 7月27日	サマーフェスティバル時に普及活動
江戸川	平成27年 8月 8日	ゴムボート試乗会時に普及活動
平和島	平成27年11月 7日	OTAふれあいフェスタ時に普及活動
多摩川	平成27年 8月 2日	ゴムボート試乗会時に普及活動
浜名湖	平成27年 8月29日他	ペアボート試乗会時に普及活動他
蒲郡	平成27年 9月22日他	ペアボート試乗会時に普及活動他
常滑	平成27年 8月22日他	ペアボート試乗会時に普及活動他
津	平成27年 7月25日	ジェットボート試乗会時に普及活動
三国	平成27年 8月 8日	ペアボート試乗会時に普及活動

琵琶湖	平成27年 7月26日他	ペアボート試乗会時に普及活動他
住之江	平成27年11月15日他	住之江フェスティバル時に普及活動他
尼崎	平成27年 7月22日他	尼崎ボートフェスティバル時に普及活動他
鳴門	平成27年 8月 3日	鳴門海峡クルーズ時に普及活動
丸亀	平成27年 7月12日	ゴムボート試乗会時に普及活動
児島	平成27年 8月 1日	ゴムボート試乗会時に普及活動
宮島	平成27年 8月 7日	サマーフェスティバル時に普及活動
徳山	平成27年 8月 9日	シーサイドフェスタ時に普及活動
下関	平成27年 7月 4日	GⅢ競走（ウェスタンヤング）開催時に普及活動
若松	平成27年 6月20日	夏まつり時に普及活動
芦屋	平成27年 8月22日	ちびっ子カーニバル時に普及活動
福岡	平成27年 8月 2日	海辺のカーニバル時に普及活動
唐津	平成27年 6月 6日	一般競走開催時に普及活動
大村	平成27年 7月11日	GⅢ競走（企業杯）開催時に普及活動
京都やわた	平成27年10月～11月	海の写真コンクール
梅田	平成27年10月～11月	海の写真コンクール

Ⅲ. 実施した競走実施業務以外の業務

1. その他本会の目的を達成するために必要な事業

(1) 広域発売の推進

ボートレースチケットショップ（ボートピア）において、舟券の作成・発売・払戻事務、その他運営に関する広報宣伝及び集客イベント等を行った。

(2) その他の業務

笹川記念会館、駐車場等の管理業務を行った。

IV. 理事会、評議員会等の開催及び認可事項

1. 理事会、評議員会等

(1) 理事会

定款に基づき5回開催し、以下について審議を行った。

回	実施年月日	実施場所	出席者数	内 容
19	平成27年 5月13日	笹川記念 会 館	9名	第1号議案 平成26年度事業報告に関する件 第2号議案 平成26年度決算に関する件 第3号議案 公益目的支出計画実施報告書に関する件 第4号議案 第5回評議員会の日時及び場所並びに目的である事項に関する件 第5号議案 競走会会長賞交付規程の一部改正に関する件
20	6月18日	笹川記念 会 館	9名	第1号議案 平成28年度SG競走等の開催地に関する件
21	9月14日	笹川記念 会 館	9名	第1号議案 競走実施業務規程（「選手、審判員及び検査員資格検定試験実施規程」、「ボート、モーター、選手、審判員及び検査員登録業務規程」及び「選手、審判員及び検査員養成訓練規程」）の一部改正に関する件 第2号議案 個人情報保護規程の廃止及び特定個人情報取扱規程の制定に関する件 第3号議案 競走会諸規程の一部改正に関する件 報告事項 各理事の職務執行状況に関する件

22	平成28年 1月29日	笹川記念 会館	9名	第1号議案 任期満了に伴う次期執行役員の選 任に関する件 報告事項 各理事の職務執行状況に関する件
23	2月25日	笹川記念 会館	9名	第1号議案 平成27年度収支予算の一部変更 に関する件 第2号議案 平成28年度事業計画に関する件 第3号議案 平成28年度収支予算に関する件 第4号議案 競走実施業務規程（選手出場あつ せん規程）の一部改正に関する件 第5号議案 退職金（職員等）の取扱いに關す る件 第6号議案 第6回評議員会の日時及び場所並 びに目的である事項に関する件 第7号議案 評議員選定委員会規則の制定に關 する件 第8号議案 給与規程等の一部改正に関する件

(2) 評議員会

定款に基づき1回開催し、以下について審議を行った。

回	実施年月日	実施場所	出席者数	内 容
5	平成27年 5月28日	笹川記念 会館	6名	第1号議案 平成26年度決算に関する件 報告事項 平成26年度事業報告に関する件 公益目的支出計画実施報告書に關 する件

(3) 理事連絡会

理事連絡会を7回開催し、本会の業務運営に必要な諸規程の制定改廃、その他事業推進に必要な事項について検討した。

2. 認可事項

- (1) 競走実施業務規程（選手、審判員及び検査員資格検定試験実施規程並びにボート、モーター、選手、審判員及び検査員登録業務規程並びに選手、審判員及び検査員養成訓練規程）の一部改正について
平成27年 9月17日（国海総第314号）
- (2) 平成27年度収支予算変更について
平成28年 3月 8日（国海総第618号）
- (3) 平成28年度事業計画及び収支予算について
平成28年 3月 8日（国海総第619号）
- (4) 競走実施業務規程（選手出場あっせん規程）の一部改正について
平成28年 3月 8日（国海総第620号）

3. 三規程委員会委員（平成28年3月31日現在）

(1) 選手、審判員及び検査員登録資格審査会

所 属	役 職	氏 名	備 考
弁 護 士		三 浦 雅 生	委 員 長
東京都六市競艇事業組合	事 務 局 長	村 野 正 義	
選 手 会	専 務 理 事	佐 野 隆 仁	
競 走 会 蒲 郡 支 部	執 行 役 員	鈴 木 隆 義	
競 走 会 住 之 江 支 部	執 行 役 員	山 崎 敏 勝	
競 走 会 若 松 支 部	執 行 役 員	進 藤 格	
競 走 会 本 部	業 務 部 長	渡 邊 哲 宏	

(2) 選手出場あっせん委員会

所 属	役 職	氏 名	備 考
日本吟剣詩舞振興会	専 務 理 事	広 渡 英 治	委 員 長
府 中 市	事 業 部 長	目 時 英 雄	
選 手 会	専 務 理 事	佐 野 隆 仁	
競 走 会 戸 田 支 部	執 行 役 員	佐々木 祐 樹	
競 走 会 本 部	業 務 部 長	渡 邊 哲 宏	

(3) 選手、審判員及び検査員褒賞懲戒審議会

所 属	役 職	氏 名	備 考
弁 護 士		三 浦 雅 生	委 員 長
日 本 財 団	常 務 理 事	前 田 晃	

モーターボート競走保安協会	常務理事	菊谷岩夫	
全施協	常務理事	吉澤正実	
青梅市	事業部長	平野雅則	
施設協	事務局長	佐藤正三	
選手会	専務理事	佐野隆仁	
競走会本部	常務理事	潮田政明	
競走会桐生支部	執行役員	藤野修	
競走会丸亀支部	執行役員	中地清二	

4. 役員、評議員及び職員（平成28年3月31日現在）

(1) 役員 11名

役職名・氏名	現職
会長 小池保夫	公認会計士・税理士 公益財団法人日本太鼓財団 常務理事
専務理事 宮本賢治	
常務理事 清明	
〃 宮武啓二	
〃 潮田政明	
理事 吉橋徹	
〃 来本正行	
〃 佐藤和孝	
〃 植木通彦	
監事 篠原通夫	
〃 中西由郎	

(2) 評議員 6名

氏名	現職
石川 聰	一般社団法人共同通信社 顧問
沖津 嘉昭	岩井コスモホールディングス株式会社 代表取締役社長
喜多條 忠	作詞家、一般社団法人日本作詞家協会 会長 一般社団法人日本音楽著作権協会 理事
小高 幹雄	一般財団法人BOATRACE振興会 会長
今 義男	公益財団法人笹川平和財団 顧問
笹川 陽平 (50音順)	公益財団法人日本財団 会長

(3) 職員等

平成27年度の採用者は34名、退職者は15名であった。

また、平成28年3月31日の現在員数は、977名であった。

5. その他

(1) 平成28年3月31日現在の株式保有の概要

名 称 : 株式会社日本レジャーチャンネル
事務所の所在地 : 東京都港区三田3-12-12 笹川記念会館9階
資本金 : 1億円
事業内容 : ボートレースを主としたレジャー番組の制作及び情報提供

役員数及び代表者の氏名 : 6名 (非常勤3名含む)

代表取締役社長 前岡良徹

従業員の数 : 52名

保有する株式数及び割合 : 1,000株、50%

当該株式等の入手日 : 平成4年4月17日

当会との関係 : 当会と株式会社日本レジャーチャンネルとは別組織体であり、
経理処理の混同、職員の兼務、不合理な資金融通等は一切行わ
れていない。

平成27年度事業報告書の附属明細書について

平成27年度事業報告には、「一般社団法人及び一般財団法人に関する法律施行規則」第34条第3項に規定する附属明細書に記載する「事業報告の内容を補足する重要な事項」が存在しないので作成しない。